

講演要旨:これからの地域医療の姿

演題: これからの地域医療の姿

演者: 島根県健康福祉部 医療統括監 兼 雲南保健所長 谷口 栄作 氏

1. 自己紹介と住民活動交流会の発足経緯

- **保健所長兼務の背景:** 2023 年に 3 名の保健所長が相次いで退職したことを受け、2024 年 4 月より雲南保健所長を兼務している。島根県では 30 年ぶりの兼任体制となる。
- **住民活動が始まった歴史:** 2000 年頃からの医師不足顕在化(隠岐島の産婦人科危機など)が発端。県内のある中核病院では外科・整形外科医の不在と麻酔科医不足が重なり、住民説明会で行政・病院・住民の対立構造が発生した。情報共有の欠如による責任の押し付け合いの反省から、住民と医療側が共に対話する「住民活動交流会」の発足へとつながった。

2. 本講演の結論:持続可能な地域医療の構築

- **最優先課題:** 「持続可能な地域医療」の構築を目指すこと。
- **地域ごとの最適化:** 医療の姿は一律ではない。出雲と益田、東京と島根では必要な医療が異なるため、地域社会への適応が不可欠である。
- **共創とアップデート:** 医療機関・行政・介護関係者・住民(小・中・高校生を含む)が対話を重ねて作り上げ、常にブラッシュアップしていくプロセスこそが重要である。

3. 日本・島根県の人口動態と担い手不足

- **人口減少の加速:** 日本の人口は減少局面に入り、年間出生数は 70 万人を割り込んでいる。島根県でも年間出生数が 5,000 人から 4,000 人を割り込むまで減少。100 年後には日本の人口が 5,000 万人を切ると推計されている。
- **幅広い担い手不足:** 医療従事者にとどまらず、県職員や介護職など社会のあらゆる分野で担い手不足が深刻化している。
- **年齢構成の変化:** 島根県の 2020 年～2040 年推計では、生産年齢世代(働き盛り)の減少が顕著であり、75 歳以上の相対的割合が急上昇する。

4. 島根県・益田圏域の医療資源の現状と将来予測

- **医療資源の現在地：**島根県全体の人口 10 万人あたり医療機関数・病床数は全国平均より多い。益田圏域は医師数は県平均より多く、看護師・薬剤師・リハビリ職(OT/PT/ST)も全国平均以上の水準だが、一般病床が多く療養病床が少ない特徴がある。
- **病床数の削減(地域医療構想)：**島根県全体で当初 8,700 床から目標 6,569 床(現在 7,413 床・15%減)へ。益田圏域では 847 床から 628 床(目標 613 床)まで減少している。
- **将来の医療需要推計(益田地域)：**人口は 2025 年の約 5 万 4,000 人から 2050 年には約 3 万 9,000 人(約 25%減)へと減少。これにより外来患者は約 35%減少、入院需要は約 170 床分減少する。在宅医療需要は 2040 年頃をピークに減少へ転じる見込み。

5. 診療所の減少と一次医療確保の課題

- **無床診療所の消滅：**島根県全体で過去約 10 年間(平成 28 年～令和 8 年)に 53 か所の診療所が減少。益田市では 14 か所が減少しており、減少率は雲南市に次いで高い。
- **医師の高齢化問題：**県内の診療所医師は 70 歳以上が 31%、60 歳以上が 61%を占める。20 年後には約 6 割のクリニックが消失する可能性があり、中心部以外(周辺部)から医療機関が消える傾向は松江・出雲・益田・浜田に共通している。

6. 一次医療・在宅医療・アクセス確保の具体策

- **一次医療確保の先進事例：**
 - 奥出雲町：廃院危機の診療所を町立病院の分院化。
 - オンライン診療：医師・患者・看護師の三者連携型(山口県岩国市などの例)。
 - 巡回診療車：川本町(加藤病院)や津和野町での取り組み。
 - その他：有床診療所の活用、赤字診療所への補填制度(昨年より一部導入)、隣接都道府県との広域連携。
- **在宅医療・アクセスの壁：**往診に対する診療報酬が不十分なため若い開業医の往診忌避につながっている。交通面では住民自ら運営する移動手段の整備事例もあるが、医療・介護財源の確保が最大の鍵となる。

7. 持続可能な地域医療に向けた行動主体と対話の重要性

- **多主体による協働：** 行動主体は医療介護関係者・患者・家族・地域住民・自治体のみならず、学校（中・高校生）や関係人口まで広がる。
- **若い世代の巻き込み：** 島根県内の中学・高校で広がる「課題解決型・探究型授業」を通じ、若い世代を地域課題の主体として巻き込むことが不可欠。
- **対話から変革へ：** 対話と情報共有を通じ、それぞれができることを考えながらPDCA サイクルを回し、理想の姿に向けて現状を変革していく。
- **結びに：** 冊子『これからの地域保健を担う人たちへ』に収録されている詩「地域の課題解決力は地域の中にこそある」を紹介。参加者全員が他人事ではなく「自分ごと」として共に取り組む重要性を訴えた。

（文責：益田の医療を守る市民の会 中川 昭生）